

演 題：豚の腎臓腫瘍

機 関 名：豊橋市食肉衛生検査所

氏 名：高木 慎介

動 物 名：豚 品 種：雑種

性 別：雌

年 齢：推定2歳

病 歴：なし

生体所見：なし

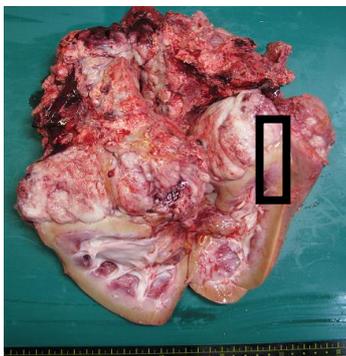
内臓所見： 右腎臓に淡桃色の 30×25×15cm の腫瘍を認めた。腫瘍は腎門から腎臓前端に向って腎臓を覆うように形成され、腎臓は変形していた。腫瘍の表面は凹凸状で、割面は出血壊死傾向が強く一部で石灰化を認めた。子宮は内膜面に直径1～3cmの有茎状の腫瘍が散在していた。子宮腫瘍の割面は白色充実性で、一部に出血を認めた。肺は全葉にわたり、実質内に直径2～4cmの結節が多発していた。肺の結節は厚い結合組織に覆われ、割面は淡桃色で膨隆し、中心部は壊死していた。

組織所見： 腎臓腫瘍では、楕円形から類円形の核を有し細胞質に乏しい腫瘍細胞が、無構造に増殖し胞巣を形成していた。腫瘍細胞は、大小不同で核分裂像を高頻度に認めた。一部の壊死傾向の強い組織では、紡錘形から不定形の腫瘍細胞が増殖し、また豊富な細胞質を有し好酸性で円形から類円形の大型細胞を少数認めた。肺の結節は腎臓と同様の腫瘍細胞が増殖し胞巣を形成していたが、胞巣の一部に、管腔構造を認めた。管腔を形成する細胞は円柱状で細胞質に富み、単層若しくは重層に配列し、核分裂像を高頻度に認めた。子宮腫瘍では、結合組織に不規則に区画され腫瘍細胞が固有層から内腔に向かって充実性に増殖していた。免疫組織化学の結果、腎臓腫瘍の腫瘍細胞はビメンチン (V9、以下、ニチレイ) に一部陽性、デスミン (ZC18)、サイトケラチン (AE1/AE3)、骨格筋ミオシン (Y32)、平滑筋アクチン (1A4) に陰性であった。腎臓腫瘍で認めた好酸性の大型細胞は、ビメンチン、デスミン、骨格筋ミオシン、平滑筋アクチンに陽性であった。

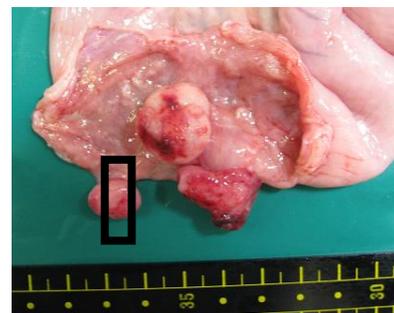
固定方法：10%中性緩衝ホルマリン

切り出し部位

腎臓腫瘍



子宮腫瘍



行政処分：全部廃棄 ・ 一部廃棄 (腫瘍)

組織診断名：豚の腎芽腫 (腎芽型)

疾病診断名：豚の腎芽腫